

会 議 録

会議の名称	令和4年11月定例教育委員会		
開催日時	令和4年11月16日 13時34分開会 15時43分閉会		
開催場所	つくば市役所本庁舎2階 防災会議室3		
事務局	教育局教育総務課		
出席者	委員	教育長 森田 充 委員 倉田 廣之 委員 柳瀬 敬 委員 和泉 なおこ 委員 成島 美穂	
	委員以外の出席者	教育局長 吉沼 正美 教育局次長 飯泉 法男 教育局次長 久保田 靖彦 学校教育審議監 根本 智 教育総務課長 笹本 昌伸 学務課長 下田 裕久 教育施設課長補佐 大口 勝也 健康教育課長 柳町 優子 学び推進課長 岡田 太郎 学び推進課長補佐 岡野 正人 特別支援教育推進室長 中島 澄枝 総合教育研究所長 山田 聡 生涯学習推進課長 澤頭 由紀子 文化財課長 石橋 充 中央図書館長 柴原 徹 中央図書館副館長 沼尻 祐一 教育局企画監 山岡 めぐみ	
公開・非公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
会議次第及び議事	1 開会 2 議事録承認 3 教育長の報告		

	<p>4 案件</p> <p>(1)議案第 36 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(2)議案第 37 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(3)議案第 38 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(4)議案第 39 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(5)議案第 40 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(6)議案第 41 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について (公開)</p> <p>(7)議案第 42 号 つくば市市民研修センターの指定管理者の指定に同意することについて (非公開)</p> <p>(8)報告第 30 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について (つくば市教育委員会職員の分限処分) (非公開)</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
--	--

◎会議の概要

1 開会	
森田教育長	ただいまから令和 4 年 11 月の定例会を開催します。
2 議事録の承認	
森田教育長	まず初めに議事録の承認ですが、令和 4 年 10 月の定例会の議事録を、皆様に事前に確認していただいておりますが、その後の修正がないようでしたら、承認することとしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。では、今回の署名人を、成島委員にお願いいたします。
3 教育長の報告	
森田教育長	続きます、次第の 3 番、教育長報告です。本日は、新設校の準備状況及び「つくば科学フェスティバル 2022」の開催の 2 点について、お話をさせていただきます。 1 点目の新設校については来年度の 4 月に開校することになっており

ます。研究学園小学校、研究学園中学校、それから島名小学校から分離する香取台小学校ですが、現在はそれぞれの開校準備委員会を開催しておりまして、校名、校章、制服、体操服の4つについては決定し、校歌の作成を依頼しているところです。通学路の安全についての話も上がっており、昨年度には、市職員が朝夕に点検して、修繕等が必要な場合には担当部署に依頼しておりましたが、今年度は、保護者様から登校班を想定した、修繕等が必要な箇所等を提出していただきまして、担当部署に依頼をしております。まだ修繕が進んでない場所もありますし、年度内に信号機が設置されることが決定している場所もあります。さらに、令和6年4月開校予定のみどりの南小・中学校の開校準備委員会を開催し、現在協議をしているところです。次に令和8年4月開校予定の中根・金田台地区小学校については、11月19日（土）の午前、午後の2回に分けて、保護者の皆様及び地域の皆様向けの報告会を実施する予定です。新型コロナウイルスを考慮して、1回につき定員90名で進めることになっております。

2点目の「つくば科学フェスティバル2022」は3年ぶりの対面開催で、つくばカピオで「つくば環境フェスティバル」と同時開催でしたが、学校や研究機関等に約40のブースを出展いただきました。私も参加したのですが、入場開始前からすでに並んでいる状況で大変盛況でした。それから、各ブースも多くの方でにぎわっていましたが、特にスライム作りやスーパーボール作り等、科学と製作が一緒になっているものは人気で、多くの方が列を作っていました。中学生や高校生が、小さい子に一生懸命科学の楽しさや面白さを教えている姿は非常にほほ笑ましく、笑顔で楽しそうにやっておりましたので、やはりつくばにはこういうものが似合うなと思いながら見て参りました。また、4人のつくば科学教育マイスターに、専門分野を活かした科学教室を実施していただきまして、多くの子どもたちに喜ばれて、子どもたちもたくさん質問しているという状況でした。会場では来場者の喜ぶ声も多く聞こえてきて、今回の開催は成功したと感じております。報告は以上でございます。

それでは、次第4の案件に入りたいと思います。本日は、議案7件、報告1件を予定しておりますが、議案第36号から第40号、それから第42号は議会案件のため非公開、公開は議案第41号だけになり

<p>委員一同</p> <p>森田教育長</p>	<p>ます。それから報告第 30 号は人事案件で非公開となります。いつものとおり、非公開案件を先に審議して、後に公開案件を審議、そしてその他という進め方にしたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>ではそのように進めさせていただきます。それでは非公開の案件から進めて参ります。本日は傍聴人がいないので進めさせていただきます。</p>
<p>(1) 議案第 36 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(2) 議案第 37 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(3) 議案第 38 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(4) 議案第 39 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p> <p>(5) 議案第 40 号 教育財産の取得の申出について (非公開)</p>	
<p>森田教育長</p> <p>大口教育施設課 長補佐</p> <p>森田教育長</p> <p>委員一同</p> <p>森田教育長</p>	<p>議案の第 36 号から第 40 号までは、関連のある事項でございますので、一括で説明をさせていただきたいと思っております。教育施設課、お願いします。</p> <p>(議案に対する説明)</p> <p>ただいまの説明に関しまして、質問や確認事項がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>ないようですので、これを認めることにご異議はございませんか。</p> <p>はい。</p> <p>では、異議なしと認め、承認したものとさせていただきます。</p>
<p>(7) 議案第 42 号 つくば市市民研修センターの指定管理者の指定に同意することについて (非公開)</p>	
<p>森田教育長</p>	<p>続いて、議案第 42 号です。これについては生涯学習推進課、お願いします。</p>

澤頭生涯学習推進課長	(議案に対する説明)
	ただいまの説明に関しまして、質問や確認事項がありましたら、お願いしたいと思います。
	(議案に対する質疑応答)
森田教育長	承認することとしてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認することとさせていただきます。
(8) 報告第 30 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について (つくば市教育委員会職員の分限処分) (非公開)	
森田教育長	続いて、報告の第 30 号について、教育総務課、お願いします。
笹本教育総務課長	(議案に対する説明)
森田教育長	質問確認事項がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。では承認することとさせていただきます。以上で非公開の案件は終了いたします。 次に公開案件です。傍聴人はいないので続けて参りたいと思います。
(6) 議案第 41 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について (公開)	
森田教育長	議案の第 41 号です。まず教育総務課から御説明をお願いします。
笹本教育総務課長	議案第 41 号、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価についてご説明いたします。まず点検評価について、こちらは地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき実

	<p>施しております。令和3年度事業から評価方法を変更いたしました。資料の6ページにあるとおり、第3期つくば市教育振興基本計画の体系に沿って、評価対象となる22の重点事業を抽出して、評価を実施する形としております。本日は担当課から、事業における内部評価及び今後の進め方について説明いたしまして、それぞれの事業に対する教育委員会としての評価をいただければと考えております。なお、本日も承認をいただいた後、12月議会にて各議員に配布し、あわせて市ホームページで公表することとなっております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>では、基本目標の1から順番にご説明いただきたいと思います。最終的には拡充、維持、縮小を決めていくこととなりますので、その辺も意識しながら説明をお聞きいただければと思います。</p> <p>まずは「教え」から「学び」へ推進事業について、学び推進課から説明をお願いします。</p>
<p>岡田学び推進課長</p>	<p>「教え」から「学び」へ推進事業について説明をさせていただきます。この事業の成果、それから課題ですけれども、「教えから学びへ」に関する児童生徒の実態調査を行っております。令和3年度と比較しまして、令和4年度については、児童生徒全体の意識が向上しているという一定の効果が見られました。ただ、友達に伝える、表現するという項目については、すべての学校において若干意識が低いところが見られております。この部分については、さらに推進していく必要があるかなと考えております。今後、ロールモデル等を把握しながら、市全体で好事例等を共有していくことが課題だと考えております。</p> <p>今後の進め方について、子どもがみずから課題を発見し解決していく授業を実現していくためには、知識の教え込みから、子ども一人ひとりに合った学びへの転換が必要になってきますので、その部分については、各学校で研修を行うとともに、教育局学び推進課としても、各学校から好事例を吸い上げる、それからロールモデルを聞き出す、そういったものを市内各校に情報発信をしながら共有をして、良い授業を市全体で作りに上げていくことが、今後必要であるというふうに考えております。</p>

	<p>続きまして、つくばスタイル科充実推進事業になります。この事業の成果、それから課題についてですが、つくばスタイル科の大きな目的の中に、「つくば21世紀型能力」を身につけるといふところがあります。こちらは、スタイル科の特徴としてこの能力を明確にすることで、市内の教員が意識をしながら、狙いを持った授業展開を行うことができ、例えば21世紀型能力の共同力であるとか、社会力であるとか、問題発見能力であるとか、そういった力を身につけてきているかなというように考えております。ただ、毎年単元プラン、授業構成案というものを検討していくわけなのですが、その内容に形骸化といいますか、マンネリ化に近いようなところも見られるところがあります。そういった部分については、その年によって地域の実態、子どもの実態が変わってきますので、それに応じたやり方というものを、教師が工夫して創造的に事業展開に反映させていくことが必要であるというふうに考えます。先日も春日学園の研究発表でもご発表いただきましたが、例えば課題設定の部分で、自分事ととらえるような課題を設定して、探求的な学びを展開するということが今後必要になってくると思います。先ほど申し上げたように、「21世紀型能力」の中に協働力であるとか、批判的思考というのがありますが、そういった場面には必ず話し合いというところ関わってきますので。思考ツール等を意図的に取り入れて、多様な考えを出さざるを得ないような環境を整えながら、多面的多角的な見方を子どもたちができるように、また新しい価値やアイデアを評価できる、賞賛するような雰囲気というものを醸成していく必要があるというふうに考えております。スタイル科の方は以上でございます。</p>
森田教育長	<p>はい、まずはこの2つぐらいで区切りたいと思いますが、今学び推進課の説明で何か確認したいこと等ありましたらお願いいたします。また意見でも結構です。</p>
倉田委員	<p>はい、倉田委員。</p> <p>ありがとうございました。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童生徒を増やす」の達成度Cのところ、最初の事業である「教えから学びへ」は、授業中になぜやどうしてという疑問を持</p>

	<p>つ児童、生徒の割合を増やすということで、子どもの意識として、そういうことを感じ取っているのかということ为解决するためには、つくばスタイル科との連携を重視した取り組みや計画がなおさら必要かなと思っています。要するに、自己課題追求がしやすい方法を検討していくことで、自分で意識を高めて追及できているのだという喜びを味わえるような、そういうシステムを今後検討していただければ充実してくるのではないかな、子どもの意識も変わってくるのではないかなと私は思うのですが、どうでしょうか。</p>
岡田学び推進課長	<p>今おっしゃっていただいたように、まだまだ教科指導の中で、自分ごとというところに意識が行ってない子どもたちも多いです。教師の方も、正直言ってまだまだ一方的に課題を与えてしまっているところがございますので、先日春日学園の発表でも、子どもたちが自分で課題を作ってというような学習展開見られましたので、そういった学習というものをぜひ、いろいろなところで広げながら、自分ごととして解決していくという、そういう学習展開を今後やっていく必要があるかなというように考えております。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございました。みずから追及する活動というのが、本当に大事だなと思います。</p> <p>他にはいかがでしょうか。はい、柳瀬委員。</p>
柳瀬委員	<p>どうもありがとうございました。8ページの内部評価の部分で、「自分の考えを友達やクラス全体に伝えているという項目が、市内すべての学校において意識が低く」とあり、これについても先ほど指摘されていたと思いますが、これを読みますと、自分の考えはあるけれども、それを伝える方法が、伝える術がまだ下手であると、そういうふうに考えているということでしょうか。</p>
岡田学び推進課長	<p>はい、そういうことです。</p>
柳瀬委員	<p>きちんと自分の考えがまとまっているかどうかというのは、伝える</p>

	<p>ことができないということと同じではないかなと思うのですが。つまり、伝え方がわからないからだろうと思われるけれども、自分の考えが作れていないというふうに考えたほうが良いとおもうのですが、どうでしょうか。</p>
<p>岡田学び推進課 長</p>	<p>確かにおっしゃるように、頭の中である程度イメージはできているけれども、そこからアウトプットする部分においては、しっかり考えまとまらないと表現できないという部分があると思います。確かに自分の考えが確実にまとまっているかと言ったら、なかなかまとまっていないから表現できないという子どももいるかと思いますが、やはりその部分については、自分の考えを持つ、まとめる、そして表現をする、というところで指導していく必要があるのかなというふうに感じました。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>そこはすごく大事ななと思っていて、閉じているのではないかとすごく心配なのですよね。この領域においては、資質をすごく言うようになりましたが、資質は具体的にできるかどうかでしか判断できないので、伝えることができればそういう資質がある、伝えることができなければそういう資質がない、というようにどうしても判断されてしまうと思うのです。それは閉じた発想で、先ほど申し上げたように、本当は考えがあるけれどもうまく表現できてないと言えるのであれば、それは開けていると思うのです。それで、すごく気になるのは、自分ごととならないというのは、実生活と結びつかないといけなくて、机の上だけの勉強になってないか、もっと物事を見たり観察したりすることがないと、表現のしようがないのではないかと思います。あの時こういう体験があったかなというように繋がっていかないと、この言葉にならないのですよね。だから、みんなコピペになってしまっ、それは自分の考えじゃないなと子どもたちが思ったとすると、思考の循環といいますか、つまり閉じた思考に追い込んでしまっでは絶対いけないと思うのですよね。僕も思っていることをうまく伝えられていないのですが。つまり、体験というのをどこかのものを観察するとか、そういう実態なくしては進まないの、つくばスタイル科も、机上の勉強で子どもたちが行き詰まらないように、どんどん</p>

岡田学び推進課長	<p>開いていって欲しいなと思います。伝わっておりますでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。まさにその例えば国語や算数でもそうだと思うのですが、教科書だけを使って机の上で勉強していたのでは、子どもというのは、与えられた教材や課題で勉強してしまうので、まさに柳瀬委員がおっしゃるように、閉じているというか、自分の目の前だけの話になってしまう、自分ごととして感じられないお子さんもたくさんいると私も思います。やはり、教員が体験や実生活に基づいたところに教材を求めて、うまく工夫をして活用した上で、それが算数や数学に生かされたり、国語の学習に生かされたりということが大事かなと思います。そういった部分を、学校と我々と一緒に考えて作り上げていくというのは、今後必要なのかなというのを感じております。</p>
森田教育長	<p>先日の春日学園の発表会でもあったように、教科書の課題をさらに身近な課題に置き換えることによって、自分が追及もできるし、さらにアクティブに追及できるというところが見えましたよね。そしたら自分も生き生きするし、表現もできるという、そのあたりを課題にする必要があるのだろうなというふうに思いますね。では、この2件を拡充・維持・縮小と考えた場合には、いかがいたしましょうか。拡充という意味が、予算を考えるのか、中身を考えるのかというのもポイントですが、そのあたりの説明を、教育総務課長、お願いします。</p>
笹本教育総務課長	<p>この判断をする上では、当然予算的な面もあるし、事業の規模的な面もあるので、両面から見てどちらが適切かというところでご判断をいただければと思っております。</p>
柳瀬委員	<p>つくばスタイル科は、もっと予算つけて欲しいなとは思いますがね。そうすると、もっと細かい話にはなりますが、この部分は学校の希望とといいますか、大事なところですからね。</p>
成島委員	<p>個別双方向で一番大事なところだと思うのですが。そのために具体的にどんなことをしていこうということがもっと見えたら、さらに応</p>

	<p>援したいと思えるのですが、同じように研修しました、アンケートとりましたというようにやられるのであれば、同じでいいじゃないかというイメージになってしまいますよね。</p>
森田教育長	<p>そこを期待も込めて、お二方はもっといい事業になるようにという意味も含めて、ということなのでしょうけれども。</p>
成島委員	<p>予算があればもっといい事業ができるのかと言われるとわからなかったのですけれども。</p>
森田教育長	<p>ではつくばスタイル科は拡充ということでいいでしょうか。「教え」から「学び」の方も拡充でいいでしょうか。</p>
柳瀬委員	<p>大事なところですからね。</p>
森田教育長	<p>そうですね、ここは教育大綱の肝ではありますよね。皆様大丈夫でしょうか、2件とも拡充ということで。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>それでは次に芸術文化活動の推進事業について、教育総務課お願いします。</p>
笹本教育総務課長	<p>まず全体的な補足になりますが、事業費の記載の部分で、こちらの予算額については令和3年度の当初予算額になります。どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>では、芸術文化活動推進事業になります。令和3年度の豊かな心育成事業については、コロナ禍の影響があったものの、8学園で実施。また、劇団四季による心の育成事業については、オンラインによる鑑賞となりましたが、29校で実施することができましたので、一定の成果を上げることができたのではないかと考えております。ただ一方で、現在の芸術鑑賞事業に対する予算は限られております。一部の学園にとっては、十分な予算配分ができておらず、例えば対象学年を</p>

	<p>絞って実施するといったような、もしかしたら希望通りの催事を実施できているとは言いがたい、そういったことも考えております。今後については、すべての児童生徒が質の高い芸術に触れる機会を作っていくことがとても大切であると考えております。こちら予算の獲得だけではなくて、例えばつくば文化振興財団など、そういったところの協力も得ながら、より良い事業のあり方について検討していきたいと考えております。</p>
森田教育長	<p>いかがでしょうか。はい、和泉委員。</p>
和泉委員	<p>私は、こちらは拡充すべきと考えているのですが、なぜかという と、後で出てくるSTEAMの中のAの部分が、余りに欠如している 気がいたします。だからこそ、芸術文化活動推進は拡充する必要がある と考えています。それでコロナという状況は致し方ないのであるから こそ、今までだと劇団四季などの観劇授業は型にはまっているとい うか、芸術文化活動はこれだけではないと思うので、もう少し学園単 位を小さくするのか、抜本的にやり方、考え方を変えるような必要が あるのかと思って、その辺を今後の進め方に含んだほうがいいのか と思いました。</p>
森田教育長	<p>これについては、以前から柳瀬委員よりお話がありますけれども。</p>
柳瀬委員	<p>まず事業の目標を変えるということですね。ここでは劇団四季の実 施、それから学園単位の観賞ということになっていますが、やはり子 ども一人ひとりに目を向けるということで、今後の進め方のところに 書いてくださっていますけども、すべての児童生徒が質の高い本物の 芸術に触れることができるよう、すべての児童生徒というところに 行って欲しいですね。そういうふうに目標を決めて、私は最終的には 1人当たり年間1千円の補助が適切ではないかなと思っています。演 劇を見るにしても音楽鑑賞するにしても、子どもであればそれくらい 年間で必要じゃないかなと考えています。そうしますと、今までは学 園単位で開催するということが小中連携の事業の中に入っていました が、芸術文化活動ということで、独立で考えていただければなと思</p>

	<p>ます。小中連携の事業については、それはそれですごく大事だと思いますけれども、芸術文化活動の推進とは、一緒にしないほうが良いと思います。ですから、逆にここで、小中連携というのを外すのであれば、どこかで小中連携の授業ができる予算組みというのにも必要じゃないかなと思いますね。その上で、各学校で子どもたちの年齢に合わせた芸術鑑賞、それから芸術鑑賞に限らず学校で芸術文化活動を推進していくことをして欲しいと。文化祭ということになるかもしれないですけど、文化祭の中身をもう少し充実していくという方法もあると思いますし、そこに部活動じゃないですけど、地域で芸術文化活動している方たちも加わって参加すること等、いろんな方法あるのを各学校で考えて欲しいと思います。</p>
笹本教育総務課長	<p>教育総務課としても、そういうことも含めて今検討中でございます。方向としてはまず、学校単位での実施ができるような形での予算措置が必要ではないかということは考えております。また、その事業のあり方として、お金だけ配分して学校にお任せしますという形ですと、学校側にも負担になるということがあるので、こういったところで学校の負担軽減できるか、例えば財団のアウトリーチ事業をもっと幅広くできないかとか、文化庁の補助事業等の活用など、全体として令和5年度中にその整理をやっていきたいと思っております。以上です。</p>
柳瀬委員	<p>幅広く意見で財団等も入って検討会議を開いていただきたいなと思いますね。先生方の意見も聞きながらで、芸術文化推進主任というのが各学校にいるといいですよ。文化芸術課でしょうか、そこの動きも兼ねてそういった協議会が欲しいなと思いますがいかがでしょうか。</p>
笹本教育総務課長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今、柳瀬委員からお話があったような形で、連携のできる組織や会議体について検討をしたいと思います。</p>
柳瀬委員	<p>お願いします。それを作ることが今盛んに言われているプラット</p>

	<p>フォームということだと思うのですよね。動かす、エンジンになっていくというプラットフォームがないと、各学校でどうぞお願いしなすって言っても、先生たちも忙しくてさらに負担になってしまうと思うので、そういったエンジンが欲しいなと思います。よろしくお願いします。</p>
森田教育長	<p>2、3年かけてしっかりやっていくということが教育総務課の考えですので、そういうことを含めると拡充ということによろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>では、拡充とさせていただきます。 続いて、人権教育推進事業について、お願いします。</p>
岡田学び推進課長	<p>成果と課題についてですが、各学校において、道徳、学級活動、学校行事等を通して、人権教育の充実を図ってきました。子どもの意識を見ても、人権に関する意識というものは高まっていると考えております。ただ、人権問題にはいろいろなものがございまして、例えば、性的マイノリティというようなことも最近叫ばれてきておりますので、そういった新しい人権課題等についても、今後は多様な視点ということで進めていく必要があると考えております。今後については、まず子どもたちそれから教職員の知的理解を進めるということも必要かなというふうに考えております。それと同時に、環境というものも大事かなと思いますので、教室環境や言語環境であるとか、そういったものを整備していくとともに、さらに道徳や学校行事等で進めていけるように、学校と市とで一緒になって考えながら、より良い人権教育というものを推進していきたいというふうに考えております。</p>
森田教育長	<p>はい、いかがでしょうか。今年はLGBTについての研修ができました。</p>
柳瀬委員	<p>私はここも拡充して欲しいのですが、拡充のひとつとして、性教育</p>

	<p>はこの事業でやるのでしょうか、それとも違うところでやっているのでしょうか。</p>
岡田学び推進課長	<p>性教育は保健教育でやっております。</p>
柳瀬委員	<p>最近の流れとしてはLGBTにQを追加したLGBTQという言葉もありますが、やはり人権教育や道徳教育の中にも性教育の領域が入ってきたと思ひまして。今まで性教育は保健の領域でしたが、人権教育でも推進した方がいいのではないかなと考えていまして、そういう意味で拡充して欲しいと思ひますね。はっきり区分けができないっていうところですね。</p>
森田教育長	<p>はい、倉田委員、お願いします。</p>
倉田委員	<p>つくばの意識レベルは高いと思ひておひまして。関西と比べても、かなり高い意識で子どもたちも自覚してそういう対応または行動ができていと思うので、私はこのまま維持していくことでいいのかなと思ひます。性教育もこの中に関連性もあつてすでに学校としては取り上げているので、学校としては意識を落とさないという意識でやれば、私はこのまま維持でいいのかなという個人的には思ひます。</p>
森田教育長	<p>来年はL T B T Qの研修費を今年よりも増やす方向で考えております。そういう点を考えれば、拡充ともいえるとは思ひのですが、考え方としては、現在行っていることをしっかりとやってきますという意味では維持でしょうかね。</p>
柳瀬委員	<p>従来人権教育は部落問題や差別問題が中心でしたが、今はどんどん展開してきていて、先ほどのLGBTQの話を含む性教育の問題やいじめの問題等、話として拡大してきそうな感じがしますよね。そういう意識を持てるかどうか。旧来の人権教育ということであれば、おそらく維持でいいと思ひます。しかし今は随分変わってきたとは思ひますよね。どうでしょうか。維持にしておいた方がいいですか。</p>

倉田委員	<p>性的マイノリティの話についても、もうずっと前からつくばでは子どもたちも意識は高かったです。私の現役時代にも、すでに意識していた記憶があります。</p>
森田教育長	<p>全体的には意識は高いですね。人権教育については、予算を取るのに拡充でよろしいでしょうかね。</p> <p>続いて、特別支援教育相談事業について、お願いします。</p>
中島特別支援教育推進室長	<p>特別支援教育相談事業についてご説明いたします。内部評価についてですが、就学相談に関しては、相談だけではなくて、観察や聞き取りと見学等も行っておりましたが、周知が不十分で、相談にいらっしゃる時期が遅かったりして駆け込みとなり、本当は特別支援学級に入った方がよかったのに入れなかったというケース等もありました。今年度は当初からホームページ等を使った周知を行っており、そこは引き続き行っていかなければならないと思っています。教育相談に関しては、保護者様からのご相談等ありましたら、学校と連絡したりして授業参観やケース会議等を行って連携しています。また巡回相談に関しては、特別支援学校に地域支援センターがございますので、そちらの先生方と一緒に回ったりすることもあって、その後の支援に活かすことができました。今後の進め方ですが、就学相談に関しては、ご相談の経緯をファイルにまとめて、小学校へ確実に引き継ぐということと、必要があれば、小学校での就学前体験を行って、合理的配慮に関する話し合いを入学前にやっていきたいということを思っています。また在学中のお子さんの教育相談に関しては、現在と同様に連携を密にして、授業参観やケース会議、それから必要があれば保護者面談等の同席もさせていただいて、進めていければと思っています。それから公立幼稚園の巡回相談に関しましては、特別支援教育推進室所属の心理士が定期的に行って、支援方法についての助言等を行っていくと思っています。そして、今回目標設定については学識経験者からのご意見をいただきまして、質の向上に関わった指標ということで、これから検討していく必要があると思っています。</p>

森田教育長	いかがでしょうか。はい、成島委員。
成島委員	公立幼稚園に関しては連携が取れているという印象はありますが、私立の方とはどういう連携をとっているのでしょうか。
中島特別支援教育推進室長	ありがとうございます。私立の幼稚園と公立保育所に関しましては、つくば特別支援学校の地域支援センターで回ってくださっておりまして、市としては、こども未来課に心理士がおりましてそちらが巡回しております。巡回の内容等でもし就学相談が必要であれば、お互いにやりとりをしながら、情報を共有している状況です。今年も年度当初に指導員が公立幼稚園、保育園、私立、それから療育センターの200ヶ所近くに訪問をして、就学相談のご案内をするご挨拶に行っております。
成島委員	ありがとうございます。気づくのが遅かった、知らなかったという話をよく聞くので、年中さんの段階から先生方には気にかかる子は気にしていただいて、親御さんと相談とる等の対処が遅れないように、もちろん言いづらい部分等いろいろあるとは思いますが、是非とも早めの対応ができたらいいなと思います。
森田教育長	いかがでしょうか。これは拡充、維持、どうでしょうか。実際に事業費の予算額を決算額が超えているような状況ですね。
柳瀬委員	これは就学相談ですよ。
中島特別支援教育推進室長	就学相談と在学のお子さんの相談もやっております。
柳瀬委員	小さい子どもだからこそ、できれば一緒の学校がクラスで学んだ方がいいわけですよ。そういう発想はないですか。もちろん相談や特別は合理的配慮しなきゃいけないですが、その時点で判断して、養護学校行きなさいとか、特別支援学校ですねとか、判断がまだ早くないですかね。つまり、小さい子どもはやっぱり一緒に勉強したほうがいい

成島委員	<p>いと思います。学習のことだけではなく。その上で、やっぱり成長に応じて、どんどん必要な配慮が増えていく、あるいは違った配慮になっていくと思うのですが、何だかこれだと就学のための判定をしているみたいで。できるだけ一緒にというインクルージョンやインテグレーションということは、まだ大事じゃないかなと思いますね。つまり早く判断していたと、ケアしなきゃいけないというのはわかりますが、他の子どもたちだと、別プログラムっていうふうに、すぐに結びつかない方がいいと思います。</p> <p>選択肢すら知らない親御さんがいるという現実があって、知っていて選んでいるのと、知らないとは全然違うので、相談をする上できっと相談員も強制はしないと思いますよ。こういう選択肢もありますというものを親御さんに知らせるという意味で相談は早い方がいいと私は思います。</p>
柳瀬委員	<p>相談は早い方がいいですが、当然現場の先生方の力量もあるし、先生方の受入というのがとても大事になってくるので、ここだけで完結していないということを言いたいのですよね。ですので、そういう連携をやっていかなきゃいけなくて、流れとして、どんどん早くケアをとるので、他の子どもたちが、困難を抱えている、あるいは合理的配慮の必要な子どもたちとの交流がどんどんなくなっていると思いますよね。最近私のところに来る学生たちが、障害者と交流したことがありませんという学生がほとんどなのです。障害を持つ家族がいますという子たちが辛うじていますが、そうではない人たちは、学校でもほとんど見たことないと言うのですよね。これはすごく問題だなと感じています。</p>
倉田委員	<p>幼稚園では一緒に生活していますし、就学指導委員会というのがあって、その時にそういう事例を検討して、どういう方向性が本人にとって一番に必要なのかという決定があるので、ここではどちらかというと、その一人ひとりに適切な対応を図るために相談活動といいますか、だから学校幼稚園でも園長も含めて、親御さんとお子さんと定期的に関わって、親御さんの悩みや今後対応についてどうすればよい</p>

柳瀬委員	<p>かという相談活動を大体年3、4回は定期的を開催しておりますよね。</p> <p>その延長線上で、小学校に連続するのが基本だと思いますね。その連携がとても大事で、小学校の低学年を持つ先生方の力量や能力というのは、かなり必要な気がしますね。そういう子たちも一緒に勉強できる先生がいて欲しいと思います。なので、そういった対応が難しいという先生方が多くなってくると本当に子どもたちもう早い段階から別の方向になってしまうと。</p>
森田教育長	<p>今はインクルーシブが非常に大事な考えで、小学校でもできるだけ個別に判断して、通常の学級とどちらがいいかということ、その子なりの重みをつけてやっていたのですが、文部科学省から、半分以上は特別支援学級にするよう通知が出たため、それが今は非常に問題になっているという状況ですよね。ただ学校としては、両方よく見て個別にやりたいというのがあって、それから特別支援学校との交流を今は非常に取り入れていますよね。なので、障害がある子を知らないっというものは、今はないのではないかなとは思っていますね。</p> <p>以上を含めると、拡充になりますかね。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>では拡充といたします。</p> <p>次に、不登校児童生徒支援事業について、これは今別途検討会議で十分検討しているので、拡充で良いですよ。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>では次に教育相談事業について、これも同様に拡充になりますかね。内容については検討会議でご議論いただいておりますので、拡充で問題ありませんか。</p>
委員一同	はい。

森田教育長	<p>では拡充にしたいと思います。</p> <p>続いて、各校計画訪問事業について、学び推進課、説明をお願いします。</p>
岡田学び推進課長	<p>事業の成果及び課題につきまして、国、県、市のそれぞれに教育事業の方針等がございますが、それを当然市の方は伝達するのですけれども、個人個人であることから各学校の受け方に当然差が出てしまいますので、指導主事の方が各学校の方に訪問させていただいて、授業改善に関してとか、学習指導方法についてとか、そういった場面で指導助言を行っております。さらには、指導主事自身が研修を積んでスキルや技術を向上させる必要がございます。各学校で指導主事が指導助言をして各学校に研修を促していくわけなのですけれども、やはりここで大事なのが、やらされる研修ではなくてボトムアップ型の研修を促していくということです。各学校で学び続けられるようなボトムアップ型の研修体制というものを今後は整えていく必要があると感じております。今後についてですけれども、個別最適な学びを実現しなければなりませんので、手だての1つとして、ICT機器の効果的な活用というものがあるかと思えます。ICT機器の使い方については、まだまだ研修不十分なところがありますので、その部分についてさらに研修体制の充実を図っていく必要があるかと思えます。それから、先日春日学園義務教育学校の発表でもいただいた教科横断的なカリキュラムという視点については、先ほど、自分事の課題や身近な問題として捉えるとか、そういった話が出ていたと思えますけれども、教科横断的な見方を持った学習というものも考えていかななくてはならず、そのためには、教科の枠というところだけの視点ではなくて、教科の枠をある程度払ったようなカリキュラムマネジメントを充実させた上で、教科横断的な学習支援というものも進めていく必要があるかと思えます。そこに向けては、指導主事の学校への派遣による指導助言という形で進めていきたいと考えております。</p>
森田教育長	<p>ここから基本目標2に入っています、「学び」の多様性に対応する場と機会は整え、個性が広い教育を推進する、という部分ですね。い</p>

	<p>かがでしょうか。</p> <p>はい、倉田委員、お願いします。</p>
倉田委員	<p>これはこのままで良いのですが、私は、計画訪問は最低限で必要だと思うのです。市独自のもの以外にも計画訪問は企画されていますので問題ないかと思います。ただ、私はそれよりも要請訪問が大切だと思っていて、各学校で意識して指導主事呼んで研修し、各学校の課題に適切に対応できるような、そういう考え方を学校が持っていたいただければありがたいなと思っています。</p>
森田教育長	<p>学校が学びたいという気持ちで研修をする必要があるということですね。はい、成島委員、お願いします。</p>
成島委員	<p>予算額が0円ですが、計画訪問は基本的には予算のかからない事業なのですか。</p>
森田教育長	<p>基本的にはかかりません、指導主事の人件費だけですね。</p>
柳瀬委員	<p>学校が率先して、うちの学校はこういう課題があるからぜひ来てくださいという方が、効果があると思います。意識としてはボトムアップであるべきだと思います。結局、国や県の方針の伝達というのは、もう皆さんもインターネットでやっているから形式的にはできているわけですね。前だったらもっと学校に行っているいろいろ説明して指導しなきゃいけなかったと思うのですが。</p>
森田教育長	<p>そうですね、どちらかという、伝達するというよりも、実現状況を見てくるという形になるのだと思います。足りない部分についてアドバイスしたり、いいところを褒めたりということになると思います。では、これは維持でよろしいですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>次に、教職員研修事業についてお願いします。</p>

山田総合教育研究所長	<p>「教え」から「学び」へを担う教職員研修事業について説明いたします。内部評価としましては、指導方針で示されたものをより実践させるということで研修を行っております。アンケートのとり方で図表化が変わってくるものですから、今後は特色に応じた質問等を通してデータをもとに最適な研修を行っていく必要があると考えております。今後の進め方としましては、先ほど学び推進課の方とも関わりますが、こちらで用意している悉皆的な研修に加えて、訪問研修的なものもどんどん昨年から増え続けており、総合教育研究所の職員が学校に出向いてやっているところです。引き続き教員の資質向上に向けて最適な研修を行っていこうと考えております。</p>
倉田委員	<p>私が気になったのは、学級経営研修講座が年に1回で、各教科指導法研修講座が年に1回という現状について、なかなか現実的に厳しいとは思いますが、年に2回やってもいいのかなと思います。なぜかという、まず1回目をやって、それを学んで実践して、結果報告として実際にはその成果がどうだったのかということをお互い協議するような場として2回目を設けていただけるとありがたいかなと思います。そういう繋がりで教員に還元できるようにしてもらえればありがたいのですが、なかなか研修計画的にものが詰まっていると難しいとは思いますが、その辺は余裕があった時はそういう企画をしていただければありがたいと思います。</p>
柳瀬委員	<p>私はこの事業は縮小でいいと思うのですよね。前から私言っているのですが、悉皆研修は縮小して、自己研修ができるような形を取って欲しいのです。千葉県の一部でやっていたと思うのですが、自分で研修計画を出して自己研修をしてそれを認めてもらうというのがあったのです。それでわざわざ茨城県まで来て、うちのNPOまで先生が研修に来たことがあります。そういう制度があるのですか、ってびっくりしたのですが、それは自己研修なのです。教師によって今自分に何が必要かということを考えるということなのです。やっぱり教わってばかりではなく、学びが必要だということで、「教え」から「学び」の教師版だと思っています。そういう意味</p>

	<p>で、本当は維持でいいと思うのですが、縮小ぐらいのつもりで研修の考え方を変えたほうがいいと思うのですね。ここに日本の伝統音楽研修講座というのがあって、歌唱指導のポイント及び日本語伝統音楽の美しさを生かした指導法と書いてあるけれども、やっぱりこういうのに興味ある方もいらっしゃるけど、芸術文化の領域なんかはもうどんどん自分でやっていくものですから、逆にそういう枠を作ってあげて悉皆研修を減らしたほうがいいと思います。</p>
山田総合教育研究所長	<p>ありがとうございます。伝統音楽研修について、今年度は希望研修にさせていただいていて、実は12月の冬休みの授業がない日に別の形で何か設定しようと考えています。悉皆の学級経営研修とか教科指導法研修についてはぜひ複数回やりたいと思っているのですが、なかなか同じ先生を出していただけないという現状もありまして、その辺が悩みとなっています。</p>
柳瀬委員	<p>是非内容を精査して、充実したもの少なくやって、広く自己研修ができるような認め方にさせていただければと思います。すぐには無理でしょうけどそういう方向性を出せないですかね。</p>
森田教育長	<p>自己研修ができる費用はちゃんと取ったのがありませんでしたか。</p>
山田総合教育研究所長	<p>自己研修ということで、校長先生の出張命令じゃないもので行う研修については予算がございます。夏休みだとか休日の部分なので、本当に自分で見つけてきて研修するというものです。</p>
柳瀬委員	<p>その部分を先生方に拡充していただきたいなと思うのですね。</p>
森田教育長	<p>ただこれは、まだ予算は使いきれていないので、増額するというとこまでいっていないのですよね。</p>
柳瀬委員	<p>そうしたら、もっとそれをPRしないといけないという部分はあるのではないですかね。</p>

森田教育長	<p>自分で申し出て、校長が行っていいよということであれば予算を出してあげるといふ制度にはなっているので、それはどんどん利用してもらおうようにしていったほうがいいと思うのですよね。ですから、考え方としては、悉皆研修を減らして自己研修を増やしていこうというのは一致した考え方ということでもいいですよ。そうとなれば、この事業は維持ということでもよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>では次に、特別教室空調設備設置事業と新設校建設事業について、教育施設課、説明をお願いします。</p>
大口教育施設課 長補佐	<p>まず特別教室空調設備設置事業についてです。事業の成果としましては、中学校及び義務教育学校につきましては本年度をもってすべての学校に、空調を設置完了となっております。小学校につきましても、当初計画より前倒して事業を進めており、本年度より設計を行い、令和5年度から2ヵ年で整備していく予定です。今後の事業の進め方につきましては、事業等の前倒しを進めていることもあり、学識経験者からも、予想以上の成果を上げていることができているというご意見もいただいていることから、引き続き着実に事業を進めて参ります。</p> <p>次に新設校建設事業についてです。事業の成果としましては、現在香取台小学校及び研究学園小・中学校ともに、令和5年4月開校に向けて、遅滞なく建設工事及び備品整備を進めているところです。学識経験者の方から、新設校の建設につきましては遅滞なく事業を適切に進めていると、ご評価いただいているところですが、またその一方で、既存校の老朽化対策についてということでご意見も頂戴している状況です。今後の進め方につきましては、新設校の建設事業を着実に進めていくことと並行しまして、既存校につきましても長寿命化計画等に基づき改修工事を計画的に進めることで、教育環境の向上に取り組んで参ります。</p>
森田教育長	<p>いかがでしょうか。このまま進めれば良いということでもよろしいで</p>

委員一同	<p>すか。</p> <p>はい。</p>
森田教育長	<p>では2つとも維持ということにさせていただきます。</p> <p>次に、学校等適正配置事業について、学務課、説明をお願いします。</p>
下田学務課長	<p>学校等適正配置事業についてご説明いたします。事業の概要、事業の目標、令和3年度の主な取組みについては資料に記載のとおりでございます。内部評価につきましては、令和3年度につきまして、令和8年4月開校予定の（仮称）中根・金田台地区小学校の学区に関し、学区審議会を開催して保護者、地域住民の意見を取り入れ、審議を行うことができました。また、変化が多いエリアの児童生徒推計については、関係部署と連携して数値等の見直しを行うことで新設校の規模を確定することもできました。適正配置計画については、学区設定において重要な児童生徒推計について、今後も関係部署と連携し精度を上げる必要があると考えております。高精度な推計を実施、見直しを行うにあたり、専門家に相談できるような体制づくりや、担当職員においても、推計に関する調査研究、研修が必要と考えております。学識経験者の意見を踏まえまして、今後の進め方につきましては、適正配置計画については5年に1度見直しを行うことになっており、現行のものは令和元年に策定したものでございますので、次回は令和6年度に見直すことになっております。それに向けまして、計画内容を精査また調査検討を行うことが必要と考えてやっていくような予定でございます。また、関係部署と連携し、市内の人口増減要因を調査の上、推計業務を行う事業者と情報共有しながら、計画の基礎となる推計を実施していきます。</p>
柳瀬委員	<p>令和6年度に見直すということは、来年度から見直しに向けた検討をスタートするということですか。</p>
下田学務課長	<p>令和6年度に見直す方向で業者等への委託を考えておりますが、そ</p>

柳瀬委員	<p>の前に見直しに向けまして、今の内容自体がどういう状況になっているのか確認していかなきゃいけないと考えています。</p> <p>現時点で推計はどうか、大きくは外れてきているということはありませんか。</p>
下田学務課長	<p>適正配置計画の中では、学校によっては4段階での推計を見ている場所と1段階での推計を見ている場所もありますので、その見方によっては違う部分が出ております。また、推計をしたときにはなかった計画が現在上がってきていて、今後児童が増えてくると予想されているようなところもありますので、少し変わっているところと推計よりも人数が少ないかなというところもあるのはあります。</p>
柳瀬委員	<p>特に問題と考えられるような大きな推計との違いというのは見当たらないということですか。</p>
下田学務課長	<p>そちらについては、竹園地区と吾妻地区につきまして、当初予定のなかった大きなマンションの計画が出てきたり、あと売却予定のなかった官舎が売却されるのではというような計画が出てきているところもありますので、その辺の状況に応じて児童生徒が増えてくると予想、予測されるような地域はあります。</p>
柳瀬委員	<p>なるほど。おそらく、適正配置計画の中には、そういう臨時に推計しなければいけないときには計画を見直さなきゃいけないということが文章の中に入っていたと思うのですよね。もしそういう時はもう遠慮なく新しく計画を出してもらった方がいいと思うのですよね。周辺地域の方は激減しているところとかはないですか。</p>
下田学務課長	<p>令和4年度時点で推計値と実数値について見ていますが、ものすごく離れているという地域については、そんなにはないかと思います。おそらく人数的な差が出ているとしても、10人から20人前後のような数値なので、それが当初の計画から100名近く離れているといった地域はあまりないかと思います。</p>

森田教育長	<p>とにかく一番心配なのは新しいマンションで、旧NTTのところの竹園のマンションと吾妻の西大通り沿いのマンションができるという、この2つですね。ここはこれから推計をしなければならないと思います。</p> <p>これは事業としてはいかがでしょうか。今のまま続けていけばよろしいですか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>では維持ということをお願いします。</p> <p>次に、健康教育課、給食施設整備事業と、安心・安全な学校給食提供事業について説明をお願いします。</p>
柳町健康教育課長	<p>まず給食施設整備事業についてご説明いたします。事業の概要、事業の目標、令和3年度の主な取組みについては資料に記載のとおりです。内部評価については、児童生徒数推計に基づきまして、急増する児童生徒に対し適正な食数を提供できるよう、（仮称）新桜学校給食センター基本計画を策定し、同基本計画及び基本設計において、学校給食衛生管理基準に適合する施設や食物アレルギー専用調理室の整備を計画することができました。このことから、当初のスケジュール通り着実に事業を進めることができたと考えております。なお、この事業を進めるに当たりまして、（仮称）新桜学校給食センター基本計画及び基本設計において、今後の建設事業費の高騰や、部品調達期間等が課題となって参ります。今後の進め方として、それら課題を踏まえた上で、今年度（仮称）新桜学校給食センター実施設計を行いました。令和5年度当初予算において、建設工事費の予算を要求し、発注準備を進めて参ります。令和5年度から令和6年度に建設工事を、令和6年度に委託業者の選定及び備品の購入等を行いました。令和7年度の供用開始に向け適切に事業を進めて参ります。</p> <p>続けて、安全・安心な学校給食提供事業についてご説明いたします。事業の概要、事業の目標、令和3年度の主な取組みについては資料に記載のとおりです。内部評価については、給食センター施設、設</p>

	<p>備に必要な維持管理や衛生管理等を適切に実施しまして、安定したセンター運営及び給食提供を行うことができました。学校給食における地産地消率については、令和3年度はつくば市産野菜が多く生産される冬季に学校の臨時休校が実施されたため、目標値である20%を達成することができませんでした。目標値には達成しなかったものの、各給食センターの献立に地産地消献立を取り入れ、つくば市産食材の導入を推進するとともに、つくば市産小麦のユメシホパンなどの商品を開発し給食提供を行うことができました。また資料には記載されていませんが、平成30年度には16.1%、令和元年度には17.2%、令和2年度には20.4%と、年々少しずつではありますが地産地消率は上がってきています。学識経験者のご意見をでもありますが、今後の進め方としては、引き続き給食センター施設、設備に必要な維持管理や衛生管理等を適切に実施して参ります。アレルギー対応についても継続して取り組み、アレルギー事故防止を図って参ります。地産地消率の目標値達成に向けまして、さらなる地場産物を使用した加工品の開発として、ユメシホのパンだけではなくて、様々な調理の仕方、または、にんじんペーストやトマトペーストの開発、あとは新規参入生産者の掘り起こし等といたしまして、今、栄養士の方たちが行っているのですが、農家訪問を積極的に行い、そういったところからの交流を深め、開拓をしていくということで掘り起こし等を実施して参ります。</p>
森田教育長	<p>いかがでしょうか。維持で、このまま頑張ってくださいということで良いですか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。 はい、和泉委員。</p>
和泉委員	<p>1点確認なのですが、給食施設整備事業の予算額と決算額について、差額の分は繰越費と考えてよろしいのでしょうか。</p>

柳町健康教育課長	<p>この予算額 28,922 千円のうち、事業の概要の方にも載っているのですが、16,456 千円は逡次繰越となります。基本設計と実施設計の2年度間に跨る事業となっていて、令和3年度の方は基本設計だけとなりますので、実施設計分の16,456 千円につきましては、令和4年度のものとなりますので、逡次繰越する関係から決算額がそれでちょっと変わってくるような形となっております。</p>
和泉委員	<p>はい、ありがとうございました。</p>
森田教育長	<p>次に、STEAM教育推進事業とデジタル教科書普及促進事業について、お願いします。</p>
山田総合教育研究所長	<p>まずSTEAM教育推進事業について、内部評価のところですが、つくばスタイル科の中でSDGsシールやアニメの制作等を行いまして、テクノロジーのスキルを身につけて、SDGsの達成に生かそうとする様子が見られております。また、本市におけるつくば版Ed techの取組みや、先進的ICT技術を活用した取組みが出て参りました。まだSTEAM教育についての研修の場が足りませんので、今後位置付けていく必要があると考えております。特にプログラミングの状況調査を行ったり、つくばスタイル科単元プランがあるのですが、その中にもSTEAM教育を充実させていきます。先ほどから出ております、教科指導の中で自分事としてとらえるような、自ら追及できる活動、そして実生活に結びつけていくといったものをさらに行っていくと考えております。STEAM教育推進事業は以上でございます。</p> <p>続きまして、デジタル教科書の普及促進事業ですが、昨年度から学習者用のデジタル教科書が一部始まったわけなのですが、いろいろまだ設定等をはじめ不具合も多く、なかなか先生方も積極的に活用ができないというフェーズでございました。研修を行ってより活用率を上げていきたいと考えています。今後、今年度は英語の方で一番使われているわけなのですが、まだ実証の段階ではありますが、どんどん使われてそれなりに効果が出てきておりますので、現在のところまだ予算は0円ですが、来年度あたりにまた検討していく必要があると考えております。</p>

森田教育長	<p>はい、いかがでしょうか。先ほどからの議論からするとSTEAM教育はもっと拡充して頑張らないといけないということでしょうか。</p> <p>はい、和泉委員、お願いします。</p>
和泉委員	<p>プログラミングとかスキルというのは手法であって目的ではないと思うのです。プログラミングができることによって何をしたいのかというのが、この取組みの中でなかなか見えてこないなと思ったので、私は拡充すべきだと考えました。</p>
森田教育長	<p>なかなかまだSTEAM教育というところの整理が上手くいってないような感じもするよね。SDGsとプログラミングというのがSTEAMとどう関係があるのかということですかね。</p> <p>はい、柳瀬委員。</p>
柳瀬委員	<p>これすごく大事なので一生懸命やって欲しいと思うのですが、何でもかんでもデジタル教科書、何でもかんでもICT活用というわけじゃなくて、やっぱりちゃんと線を引いて、ここはもう徹底的にデジタルできちんとやりましょうよ、けどこの部分は別にデジタルじゃなくてもいいよねという見極めが必要だと思います。みんな子どもたちに対してどんどん本を読んでくださいというのは、これは本を紙で読んでもらった方がいいのですよね。読書をデジタルでなんてやることはないと思うので、その線引きが大事で、それをうまく発信して欲しいのです。おそらくデジタル教科書って言われただけで身構えてしまう人たちがたくさんいると思うのですね。そういう人たちが、そうではなくて部分的にはデジタルでやったほうがすごく良いのだ、というのがわかるような方向ですよね。だから、本はみんな読みましょよというのは位置付けてほしいですし、SDGsもゴーゴーと言っている人たちがいっぱいいて、子どもたちもその誤解の渦の中に巻き込まれてしまっている。いまは新しい情報がどんどん入ってくるわけじゃないですか、レジ袋を削減してもエコバックを150回使わないと駄目なのですよと子どもたちが言われて、今までそれが正しいSDGsだと思っていたのが実はそうではなかったと思うことがたくさんあ</p>

山田総合教育研究所長	<p>るわけですね、まあ大人もそうなのですけれども。まあ過渡期であるのですが、こういうボタンのかけ違いがいっぱいあるよねと思うのですが、どうでしょうか。</p>
山田総合教育研究所長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。実はデジタル教科書についても、とりあえず誰もがまだ使ったことがなくて、使ってみたら、こういうところはよかったけれどもこういうところは使わなくてもいいよねというメリット・デメリットが見えてきて、これからはやっぱり取捨選択というか、その場面によって、デジタル教科書はいろいろ英語なんか動画が流れたりとか、そういう音声なんか再生速度が変えられたりとか、いいものもたくさんあるので、そういったものを進めつつ、やっぱり紙も大事だと思っているところが本音でございます。SDGsの方もそうで、いろいろ先生方もかなり工夫されて、授業の中でそういうSDGsの言葉が使われるようになってきているので、それはそれでいいのかなと思っている一方で、今のような懸念もありますので、引き続き検討していかなければいけないと思います。</p>
柳瀬委員	<p>それで双方向にディスカッションできていますかね。先生と先生たちもそうだし、ディスカッションしながら進めるしかないと思うのですけれども。</p>
山田総合教育研究所長	<p>これを進める上でのディスカッションですね。そういった事業の中で対話的なものは確実に増えていると思うのですが、まだまだこれからで、今度は来週の25日のプレゼンテーションコンテストでこういったこと発信することがあるのですが、中にはちゃんと対話しながらやっていくものもあるので、より推進していく必要あると思います。</p>
柳瀬委員	<p>何ていうか、こういう場だから私も言っていますけれども、やっぱりこれを心配している人たちはなかなかそういうところへ来て意見を述べることはしないじゃないですか。推進する人たちはもうどんどんいけいけでやっていたとしても、何か一般的な社会通念からはちょっとは外れてきちゃう可能性があると思うのですよ。SDGsについて</p>

	<p>も、ICTについても、そういう協議会というか、何かコミュニケーションをとる、反対している人たちの意見も聞けるような場がやっぱり大事なのではないかと思うのですよね。どうでしょうかね。STEAM推進の関係者だけじゃなくいろんな人たちの意見を聞くことで、少しずつそこにある問題が見えてくるみたいな、そういうチャレンジが欲しいな。</p>
森田教育長	<p>そうですね。本当に先生たち自身が議論しながら納得してやらないと駄目だというのはあると思うので、ぜひそういう機会を総研の方でしっかり設けていければと思います。では、事業としてはいかがでしょうか。拡充でいきますか維持でいきますか。STEAM教育は、拡充して欲しいということではいかがでしょうか。また、デジタル教科書の方は、いよいよ今度教科書採択があります。まだ国の方針もはっきりしていないのですが、とりあえずまず維持をしながら様子を見ていくというか、議論を進めていくということではいかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、図書館関係について、図書館サービスポイント整備事業と電子図書館サービス事業について、説明をお願いします。</p>
柴原中央図書館長	<p>2つ事業がございます、1つ目が図書館サービスポイントの整備事業でございます。事業の概要、目標、令和3年度の主な取組みにつきましては、資料に記載のとおりでございます。内部評価についてですが、成果としましては、令和3年11月に島名交流センターにブックポストを設置いたしました。新たに図書の返却ができるポイントを増設したことによりまして、サービス向上を図ることができたと思っております。また、令和4年度の図書館情報システム更新、これは実際今年度の10月に行ったわけですが、そちらに向けまして、市役所コミュニティ棟、香取台小学校、研究学園小学校へのサービスポイント新設を盛り込んだ予算を計上いたしました。市役所コミュニティ棟につきましてはすでに10月からサービスが開始しているところでござい</p>

<p>森田教育長</p>	<p>ますが、今後、令和5年度に香取台小学校及び研究学園小学校のサービスを開始する予定となっております。今後の進め方については、中央図書館や交流センター図書室からの距離、或いは各地域の各地区の状況等を考慮しながら、新たなサービスポイントの設置であるとか、ブックポストの設置について検討を続けて参りたいと考えております。また、令和5年度に開始する香取台小学校及び研究学園小学校での図書館サービスにつきまして、その内容等を検討し準備していきます。</p> <p>続きまして電子図書館サービス事業になります。事業の概要、目標、令和3年度の主な取組みにつきましては、記載のとおりでございます。内部評価についてですが、成果としましては、令和4年10月の図書館情報システムの更新に合わせまして、電子図書館サービスを導入することを決定いたしまして、必要な予算等を計上いたしました。図書館情報システムと電子図書館サービスの連携につきましては、円滑な運営が開始できますようシステムの更新にあたっていくということを取り組んで参りました。課題としましては、電子図書館サービスの向上に向けまして、実際のコンテンツの選定に当たりまして、選書委員会というのを通じて行うわけなのですが、こちらの選定をしまして、コンテンツの充実を図るところと、新規事業でございますので予算の確保を図っていくということを課題として挙げております。今後の進め方につきましては、統計情報等を参考にしまして、利用者ニーズを把握するとともに、コンテンツにつきましては有期限、つまり回数制限があるタイプと、無制限のタイプとの2種類が大きく分けてございますので、そういったところの選定のバランスを考慮しながら、コンテンツを選定して、質・量ともに充実を図っていきたいと考えております。また、学識経験者等の意見にもございましたが、サービスそのものや、周知を進めて欲しいというご意見もございましたとおり、ホームページと、各種広報媒体を活用いたしまして、利用方法をはじめ、電子図書館についてのPR、そして利用の促進を図ることを進めていきたいと考えております。</p> <p>図書館関係の2点ですけれども、いかがでしょうか。サービスポイントは徐々に増やしているというところですかね。維持でいいです</p>
--------------	--

委員一同	か。
森田教育長	<p>はい。</p> <p>では、このまま続けてくださいということで維持とさせていただきます。</p> <p>次に、文化財関係が2点です。説明をお願いします。</p>
石橋文化財課長	<p>文化財催事講座等事業につきまして、事業の成果・課題につきましては、コロナ禍の影響によってコロナ禍以前に立てた目標の来場者数には及びませんでした。令和元年度に比べると、催事の一部及び古文書講座を再開できたこと、巡回企画展を開催できたことが成果になり、これらを実施することにより歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができました。今後の進め方としましては、新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら巡回企画展と関連する講演会等、小田城・平沢官衙遺跡での季節の催事を、工夫を加えながら継続して開催していきます。また、平沢官衙遺跡では再整備工事において、茅葺き等の伝統工法の施工がされる機会がありますので、市民の見学や作業体験の機会を作っていけるよう検討して参ります。平沢官衙遺跡再整備事業につきましては、再整備懇話会を開催し指導を受けながら、再整備基本計画及び基本設計を作成しました。今までの平沢官衙遺跡の状況を整理して計画の概要を進めるとともに、予算の概要を含めた事業計画をまとめ、今後の整備工事への道筋をつけました。今後の進め方につきましては、基本計画・基本設計を基礎に、令和8年度の完了予定として進めて参ります。令和4年度にフェンス整備、復元建物再整備実施設計を作成し、令和5年度から8年度までで再整備工事を進めていく予定です。</p>
森田教育長	何かご意見ありますでしょうか。はい、柳瀬委員お願いします。
柳瀬委員	文化財催事講座等とありますけど、催事というのはどういう意味でしょうか。

石橋文化財課長	文化財を周知するためのイベント全般を含めて呼んでいます。例えば、毎年どんど焼きを小田城跡で地元の団体がやっているのですが、それに共催するような形でステージイベントをやったりですとか、平沢官衙遺跡で、防虫のために芝焼きをやって、そこに和太鼓の演奏をつけて周知の機会としたりですとか、そういうものも含んでいます。
柳瀬委員	そういう催し物に対して、コロナ禍により講座がなかなかできないということですね。それから、子どもが関わられるようなことがなかなかできなかったということですかね。
石橋文化財課長	そうですね、昨年度はなかなかできなかったということになります。その中でも体験事業として、出土文化財管理センターで、親子で参加する形で、全員で15名程度なのですが、土器をくっつける接合であったり、土器等の模様を写し取る拓本であったり、そういった体験事業をやることができました。
柳瀬委員	毎回言っていて申し訳ないのですが、市民研修センターとかをうまく使って子どもたちにどう文化財の意味を伝えていくか、それから創造的な活動ができるかというのを、コロナ後を見据えて準備して欲しいなと思います。私は、この事業は拡充して欲しいと思っていますところでは。
森田教育長	ほかにはいかがでしょうか。はい、和泉委員。
和泉委員	いつも文化財課の報告を聞いていて、宝の持ち腐れと言いますか、残念な思いでいっぱいになるのですが、やはり教育とか学習との接続をもっともつとできるのではないのでしょうか。例えば、先ほどのSTEAM教育とか、探求型の学びとか、その素材がこんなにあるのに先生たちが知らないというのも1つあるのでしょうかね。タブレットを使ってこれを1つの教材にしながら、画像を取り込んで何か作ってみるとか。これは私の素人考えですが、何かもうちょっと学校とか基礎教育との接続ができるのではないかという意味で、拡

	<p>充すべきと考えます。</p>
石橋文化財課長	<p>学校の先生向けの研修ということで、つくば市に平沢官衙遺跡や小田城跡があるとか、こういった文化財があるよという研修については、夏休み期間中にやっているのですが、それもここ2年はちょっとコロナ禍の影響で中止している状況です。ただ、学校の先生にも知ってもらおうとはこちらも考えております。</p>
森田教育長	<p>はい、倉田委員。</p>
倉田委員	<p>私はつくば市の歴史民俗資料館というのを大きくつくって、そこで全部学習とか研修などの教育ができて、あとは観光としても人を呼べるような施設を整備しても良いのかな、それが理想だと思います。10年越しでも構わないので、そういうものができれば非常に価値が高まるのかなと私は個人的に思います。</p>
柳瀬委員	<p>私、群馬県にある埴輪の里というところ、火山が噴火して火山灰で埋もれちゃった大きな古墳を掘り起こしてというところに行ってきたのですが、常時埴輪作り体験をやっているのですよね、市民の人たちと。話聞いたら結構人気だということで、土も当時の粘土がまだあるからそれを掘り起こして作っているというのですよね。地味と言ったら怒られるかもしれませんが、そういうことがすごく大事だと思うのです。催事もいいのですが、地味な活動があつてこそ催事が生きるのだと思うので、それがなくて催事だけをやると、何かとつづけたものにどうしてもなってしまうのですよね。どんど焼きだって、どんど焼きの色々なことを調べると、つくばは面白いはずなのですよね。どんど焼きも各地区でいろいろあるはずなので。</p>
倉田委員	<p>青森の三内丸山遺跡とか、ああいうふうに整備すれば非常に利用価値が高まって、他からも、つくば以外の人間も興味関心を持ってつくばの良さというのに気づいてくれるのかなという、そういう長期的な展望なのですが、思います。</p>

柳瀬委員	それが更にICTを通じてというのであれば、もう本当にもう鬼に金棒になってくるのですけどね。
森田教育長	周知をするということと広く教育でも活用できるような組み立てをするというのは大事だと思いますので、文化財催事講座等事業は拡充ということによろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	平沢官衙遺跡再整備事業の方は維持でよろしいでしょうかね。
委員一同	はい。
森田教育長	ではそういうことでお願いします。 次は、生涯学習関係でつくばちびっこ博士とコミュニティ・スクール導入について、生涯学習推進課、お願いします。
澤頭生涯学習推進課長	つくばちびっこ博士事業についてご説明します。事業の概要、事業の目標、令和3年度の主な取組みについては資料に記載のとおりです。内部評価につきましては、開催期間の途中で現地見学を中止せざるをえない状況となってしまいましたが、代わりに動画配信を行うことによりまして、事業を継続させることができました。動画の累計視聴回数も5万3千回以上となっており、児童生徒の学びに寄与したものと考えております。今後は、学識経験者の意見にもございますように、子どもたちにどのように受けられたのか気になるところだということを受けまして、児童生徒へのアンケートを行いたいと思っております。子どもたちの意見感想を踏まえまして今後の事業に反映させたいと考えております。また、今後デジタルスタンプラリーとして行えないか、来年度を実証の年度として進めていきたいと考えています。 続きまして、コミュニティ・スクール導入事業についてご説明します。内部評価について、吾妻学園をモデル校として支援しスケジュール通りに今のところ導入準備を行えている状況でございます。今後の進め方につきましては、今後導入準備学園に対する合同説明会や、事

森田教育長	<p>後のヒアリングを行いながら助言を行っていきます。また市内全校を対象とし、研修の機会を提供していきたいと考えております。最後に、導入学園に対する学園の自立性を前提とした上での適切なフォローアップを行っていきたいと思っております。</p> <p>いかがでしょうか。倉田委員、お願いします。</p>
倉田委員	<p>コミュニティ・スクールの導入はやっぱり拡大していく方向で進めていかなくちやならないのかなと思います。だから、どのようにしたら学校独自の特色を出せるのか、その組織の在り方というものを今後さらに研究していく必要があるかなと思うのですね。だから、私の理想としては、学校それぞれの地区の良さ、学校の特色が見えるような進め方が望ましいのかなと思います。そういう意味で、このモデルとしてぜひ拡大していただければという思いです。</p>
和泉委員	<p>私もコミュニティ・スクールは拡充だと考えています。あと、三鷹市の事例のときに、地域コーディネーターというポジションを設けて、その人が連携する役割も非常に大事な役割だと思って聞いていたのですが、これは何かここで触れておく必要はないのだろうかと思います。あと人件費的に予算に何か組み込んでいく必要があるのかなというのが気になりました。</p>
澤頭生涯学習推進課長	<p>和泉委員がおっしゃいますように、地域コーディネーターは、コミュニティ・スクールの中で重要な役割を担っていただく方になっておりますので、記載の方法はこれから考えていきたいと思っております。予算につきましては、令和3年度は0とはなっていますが令和4年度につきましては、予算を取って、翌令和5年度も予算を取ってやっておりますので、予算の上でも拡充といいますか、しっかりと予算を確保した上で、学校への支援をさせていただきたいと考えております。</p>
森田教育長	<p>コミュニティ・スクール導入事業は、予算も増えるということで、拡充でよろしいでしょうかね。</p>

委員一同	はい。
森田教育長	つくばちびっこ博士の方はいかがでしょうか。はい、柳瀬委員、お願いします。
柳瀬委員	私は、つくばちびっこ博士は大きく見なおしたほうが良いと思っています。無理にデジタルスタンプラリーとかやることないと思うのですよね。率直に言っちゃいますと、誰でもアクセスできる広く浅くという方向ではなくて、もっと深く体験できるものを今から準備しといたほうが良いと思うのです。このコロナ禍の後、ウィズコロナでもできるようなものを模索すべきだと思うのですよね。デジタルスタンプラリーというのはとりあえず継続するための方法みたいに感じてしまうので、大きく見直して、そういう意味では縮小した方が良いと思うので、もっと深く体験できるものを目指してほしいですね。せっかく積み上げてきたものがあるとは思いますが、ここでデジタルスタンプラリーとして集約してしまうのはもったいないと思うのですね。
森田教育長	いかがでしょうか。実はデジタルスタンプラリーのアイデアは私が出したのですが、今柳瀬委員がおっしゃったとおりだと思って、紙だとただスタンプを押してきて終わってしまうということになってしまっているのですよね。今度はデジタルで1人1台端末があるので、それにクイズが出たり、それからもっとそれを調べて端末に調べたことを書き込んできてプレゼンしたりするとか、そういう学びにつなげていくためのデジタルスタンプラリーというアイデアだったのです。ただデジタルでハンコを押せば良いというわけではないという、その辺の資料の書き方がちょっと表現できていないというのはあるのですが。
柳瀬委員	折角研究施設との連携ができて、深い体験をすることができるので、もっとそういうことを活かしていけば良いと思うのですよね。それがやっぱり一番だと思います。
森田教育長	そういう感動を、端末の写真に撮ったりコメント書いたり、そういうので評価してあげたらいいのではないかと思います。

倉田委員	体験の後の繋がりは大事ですね。今のところは少しマンネリ化もしてきてしまっていると思うので。
柳瀬委員	いずれにしてもやり方については是非考えていただきたいなと思います。
森田教育長	では、これは維持にさせていただいてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	長時間にわたりまして評価いただきありがとうございました。後ほど教育総務課の方でまとめていただければと思います。よろしく願いします。
5 その他 中学校部活動に関する報告（学び推進課）	
森田教育長	案件は終わりましたが、議事のその他について、まず学び推進課から部活について報告があります。
岡田学び推進課長	中学校の部活動についてご報告させていただきます。今まで中学校の部活動は、平日のうち1日と土日のどちらか1日の、1週間の中で合計2日間は活動しない日を設けて、心身の休養に充ててもらっていました。近年の子どもたちは多様な趣味を持っていて、色々な活動にチャレンジする子どもも増えてきており、更に平日に1日追加で活動しない日を設けて、学校の部活動ではない活動を選択できる日を作るということで、11月から部活動がない日を平日に2日、休日どちらか1日ということで、部活動がない日を1日増やさせていただきました。部活動がない日が増えたことで、部活ではない活動をやる子どもや休養に充てる子もいる一方で、今までの学校の部活動と同じスポーツをやりたい子もおります。なので、市の方で現在進めているところですが、学校と同じスポーツができる環境を整えたいということで、地域スポーツクラブと連携をしながら、部活動と同じスポーツを地域スポーツクラブでやりましょうということで、そういった受け皿を提供しているところです。現在、谷田部東中学校、竹園東中学校、荃崎

	<p>中学校、高崎中学校は地域スポーツクラブや筑波大学と連携しながらそういった場を提供しております。10月からは、みどりの学園義務教育学校で民間企業と協力しながら地域スポーツの場を設けています。現在つくば市内のすべての地域にこういった場を提供しているところまでは進められておりませんので、今のところ、市長部局の文化芸術課やスポーツ振興課などと協力しながら、地域スポーツの場を提供できるような形を検討しているところです。なるべくつくば市全域にそういった場を提供できるよう進めていきたいと考えております。</p>
森田教育長	<p>平日の部活動実施日を更に1日減らしたということですが、いかがでしょうか。</p> <p>はい、和泉委員。</p>
和泉委員	<p>説明ありがとうございました。地域スポーツクラブと連携してそこに通う場合は無償ですよね。</p>
岡田学び推進課長	<p>いえ、受益者負担の有料ということで実施しております。ただ、高額な負担を求めるものではありません。</p>
和泉委員	<p>そうなると、通いたくても通えない、スポーツしたくてもできないというような経済状況の子どもたちにとってどうなのかなということが懸念されますね。もしかしたら今後希望者が多いなどの状況があればそういった子どもへの支援の仕組みを考えていいと思いました。</p>
森田教育長	<p>そこはやっぱり課題の1つですよ。やはり経済的に支援が必要な子がいるのではないかということは、これから解決しなくてはならない問題だと思っています。とにかく今までの部活動の活動量が、子どもたちの限界を超えてしまっている、そしてそれが怪我や精神的な燃え尽きに繋がってしまうというところがあったと思うので、今後は選択できるようにしようということですね。</p> <p>部活動の日にもいつもバスケットボールをやっている、部活動がない日は音楽をやりたい、なんていう子がでてくれば、それが一番良いのではないかと思います。</p>

委員一同	<p>ほかにはいかがでしょうか。あと、委員の皆様から何か次回までにこういうことも知りたいということがありましたらメールでお知らせいただければと思います。今日はよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>それでは以上をもちまして、令和4年11月の定例会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

◎会議録の調製

調製年月日	令和4年（2022年）12月21日
調製者	吉沼 正美